

週報

国際ロータリー第 2660 地区

令和 8 年 5 月 12 日



豊中ロータリークラブ

第 3074 例会
第 2668 号

よいことのために
手を取り合おう

広めよう ロータリーの心 地域とともに

創立 1959 年 6 月 16 日

2025～26 年度
国際ロータリー会長
フランチェスコ・アレツォ
(イタリア、ラゲーザ RC)

Rotary
Toyonaka



2025.7～2026.6
会 長 松本 悟
副 会 長 矢口正登
幹 事 藤田充男
雑誌・広報・会報委員長
都井正剛

本日 (5 月 12 日) のプログラム

「大学発ベンチャー」

大阪大学情報科学研究科 教授

中江 文 様

卓話担当：眞下 節



次回 (5 月 26 日) のプログラム

「青少年奉仕月間に因んで」

青少年奉仕委員長 岩本洋子

会長の時間

「身体拘束について」

2025-26 年度 会長 松本 悟

「身体拘束」という言葉をご存じでしょうか。

これは、医療や介護の現場において、認知症の方たちをみる際に、危ない行動を防ぐため、ベッドに縛り付けたりすることです。かつて介護施設では、認知症の方に対する身体拘束が問題視されてきました。

転倒防止や安全確保の名のもとに行われてきた側面がありますが、本人の尊厳を損なうとの観点から、欧米では原則として拘束はほとんど行われていません。背景には、人員配置が手厚く、場合によってはマンツーマンで付き添える体制もあると言われていました。

日本でも本人の尊厳を重視し、拘束しない方向へ舵は切られてきましたが、現場では簡単ではありません。転倒リスク、夜間の見守り、人員不足など、理想と現実の間にはなお隔たりがあります。

医療現場でも、点滴の自己抜去、酸素マスクを外す、術後安静が保てないなど、治療上の必要性から拘束することがあります。縛る行為だけではなく、点滴等を抜かないようにミトン型手袋をつけること、車イスから立ち上がらないようにテーブルを設置すること、ベッド柵で困ってしまうこと等も身体拘束と定義されています。

私どものような慢性期・回復期医療現場では、元の生活に戻ってもらうために、リハビリが重要です。「活動を取り戻す」ことが治療目標なので、身体抑制することは治療に逆行することになり、当医療グループでは積極的に、身体抑制ゼロ化活動をして参りました。そのため動くアラームがなるセンサーを装着させてもらっているケースが多く、そのアラーム音に対応するため、スタッフは走り回ってくれています。人手の少ない夜勤帯は特に大変なので、朝、私が出勤した時には、へとへと顔で挨拶してくれています。

そうした中、2年前の診療報酬改定で身体拘束に対する減算が導入され、本格的に「拘束しない医療」が求められるようになりました。これは大きな転換点だと思います。

ただ、現実には葛藤もあります。ご家族から「危ないから縛っておいてください」と言われることもあれば、拘束せず転倒事故が起これば、「なぜ見ていなかったのか」と責められることもあります。安全を守る責任と、尊厳を守る責任。その両立の難しさを現場は日々抱えています。

日本では「迷惑をかけない」「事故を起こさない」ことへの意識が強く、それが身体拘束を容認しやすい土壌につながっているのかもしれない。

四つのテスト 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 好意と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか

事務局・例会場：〒560-0021 豊中市本町 3 丁目 1 番 16 号 ホテル アイボリー内
TEL 06-6858-1551 FAX 06-6857-0011

例会日時：毎週火曜日 12 時 30 分より

事務局：9 時～15 時(土日祝を除く)

HP アドレス：<https://toyonaka-rc.jp>

メールアドレス：jtrc2660@sun-inet.or.jp

☆出席報告☆

	第3073回	第3070回
例会日	4月28日	3月24日
① 会員数 A	27	27
(内出席免除者)	6	6
② 出席義務者数	21	21
③ 出席義務者出席数	11	11
④ 出席免除者出席数	2	2
⑤ メイクアップ数		5
⑥ 出席義務者欠席数	9	10
出席率 %	56.52%	78.83%

出席率(3073回) ③+④/②+④ 出席率(3070回) ③+④+⑤/②+④

⇒ 幹事報告1 ⇒

・国際ロータリー第2660地区

「RI第2660地区大阪ナイト(2026台北)_台湾姉妹クラブ招待についての案内」が届きました。

「ハイライトよねやま vol.313」が届きました。

・公益財団法人ロータリー米山記念奨学会より

「米山奨学生例会出席・奨学金受領確認書のご提出のお願い」が届きました。

・大阪北ロータリークラブ

「クラブ対抗チャリティボウリング大会ご寄付送金の件ご連絡」が届きました。

⇒ 掲 示 板 ⇒

・第11回定例理事会・第6回被選理事会

日 時：2026年5月12日(火) 本例会終了後

場 所：ホテルアイボリー例会場

・池田RCとの合同例会・懇親会

日 時：2026年5月20日(水)

18:00 受付 18:30~19:30 例会

場 所：池田商工会議所

懇親会：“かごのや”池田市役所前店

時 間：19:45 懇親会スタート

会 費：8,000円

・第5回IM第1組会長・幹事会および第1回次年度会長・幹事会

日 時：2026年5月22日(金) 17:00~20:00

場 所：ザ・リッツカールトン大阪

・次年度のための地区会員増強セミナー

日 時：2026年5月23日(土) 12:00~12:00

場 所：大阪YMCA 2F大ホール

・創立記念日例会

日 時：2026年6月20日(土) 18:00~

場 所：豊中商工会議所 大会議室

🌸 5月のお祝い 🌸

・入会記念日

澤木 政光 会員 H.5.5.11

畑田 耕一 会員 H.8.5.7

佐川 正治 会員 H.11.5.11

谷野 桂子 会員 H.21.5.1

眞下 節 会員 H.24.5.1

・会員誕生日

武枝 敏之 会員 S.22.5.14

・結婚記念日

矢野 昭 会員 H.4.5.4

小川 佳伸 会員 H.5.5.15

・ご夫人誕生日

藤田 充男 会員 真由美夫人 5.7



😊 4月28日のニコニコ 😊

・5月20日の合同例会よろしくお願ひ致します。 池田RC

・春の家族会でお世話になりました。 大阪中之島RC 植屋亭様

・誕生日祝いを頂いて 宮田会員

・池田RC会長はじめお二人のご参加を歓迎して 松山、松本各会員

社会奉仕・青少年奉仕合同事業

2025-26年度社会奉仕・青少年奉仕合同事業として豊中市の子供食堂にお米を豊中市の公立小学校にお習字セットを寄贈いたしました。



○お知らせ○

・次回の例会は、5月20日(水)池田RCとの合同例会です。以前の週報では曜日が間違っておりました。5月20日(水)です。宜しくお願ひ致します。

「国際奉仕月間に因んで」
—国際奉仕フォーラム—

国際奉仕委員長 武枝敏之



本日は「国際奉仕」について、お話しさせていただきます。ロータリーにおける国際奉仕は、国際ロータリーが掲げる五大奉仕の一つであり、世界の人々と協力しながら、理解・親善・平和を築くことを目的としています。まず、国際奉仕の本質について考えてみたいと思います。

国際奉仕は、単なる「支援」ではありません。大切なのは、「相手の立場に立ち、共に考え、共に行動すること」です。一方的な援助では長続きせず、本当の意味での課題解決にはつながりません。では、具体的な活動を三つに分けてご紹介します。

一つ目は、人道的支援です。教育、医療、水と衛生といった分野で、多くのクラブが活動しています。特に有名なのが、ポリオ根絶活動です。この活動は世界規模で展開され、発症数は劇的に減少しています。これは、ロータリーの国際奉仕の象徴ともいえる取り組みです。

二つ目は、国際交流です。海外のクラブとの友好関係の構築や、訪問・受け入れなどを通じて、人と人とのつながりを深めます。これにより、文化や価値観の違いを理解し、信頼関係を築くことができます。三つ目は、留学生支援です。これは私たちのクラブにとっても非常に取り組みやすく、また意義の大きい分野です。留学生は、将来それぞれの国で活躍する人材であり、彼らとの交流は長期的な国際関係の礎となります。次に、国際奉仕の意義について考えます。

クラブにとっては、活動の広がりや魅力向上につながります。特に若い世代にとって、国際的な活動は大きな関心事であり、会員増強にも寄与する可能性があります。地域にとっては、多文化共生の促進という大きな価値があります。留学生や外国人との交流は、地域社会に新しい視点と活力をもたらします。そして世界にとっては、小さな活動の積み重ねが、平和と安定に寄与します。国際奉仕は、まさに草の根レベルでの平和構築といえるでしょう。では、こうした活動を成功させるためには何が必要でしょうか。第一に、ニーズの把握です。現地が本当に必要としていることは何かを理解することが不可欠です。第二に、継続性です。一度きりの支援ではなく、長期的な視点で取り組むことが重要です。第三に、パートナーシップです。現地団体や他クラブとの連携により、より効果的な活動が可能になります。そして第四に、会員の参加です。一部の人だけでなく、多くの会員が関わることで、活動が活性化します。ここで、私たちのクラブとしての展開について考えてみます。

まずは、留学生支援の強化です。例会への招待や交流イベント、日本文化体験などを通じて、より深い関係を築くことができます。単なる支援ではなく、「共に楽しむ」ことが重要です。

次に、海外クラブとの関係づくりです。いきなり大きなプロジェクトを行うのではなく、まずはオンライン交流などから始め、信頼関係を築いていくことが現実的です。

さらに、小さくても継続できるプロジェクトの実施です。最後に申し上げたいのは、国際奉仕は特別な活動ではないということです。

私たちの日常の活動の延長線上にあり、一人ひとりの意識と行動が世界につながっています。

「世界を考え、地域で行動する」

この理念を実践することこそが、ロータリーの国際奉仕の本質ではないでしょうか。